

グラビア	地域を支える人 佐々木俊樹さん 石井 誠さん 橋村翔太さん 奥山和貴子さん 酒井大輔さん	・秋田市	1
発掘！地域の希望のタネ	香川県三木町×さぬき市 〈Tyrell × Les Gants〉		5
給食のじかん	〈ホンモロコの甘露煮〉岡山県美咲町	松本 睦	6
書評	『3・11 避難者の声～当事者自身がアーカイブ～』 『故郷喪失と再生への時間』	菅原敏夫	8
焦点	名護市長選とこれからの沖縄	城間陽介	10

特集

災害から地域を守るために

	巨大災害に即応するために —自治体間の広域的応援態勢のあり方	永松伸吾	16
	みんなで育てよう「地区防災計画」	加藤孝明	24
	熊本地震における避難所活動にみる 「共助」の役割	加藤壮一郎	31
	過疎地域における防災対策の課題と 解決のための方向性	笹田敬太郎	40
	“諦めない町”づくり—高知県黒潮町	村越 淳	48
特別報告	双葉郡のいま—原発事故から七年目の被災地の「姿」	高木竜輔	56
紹介	『防災学習実践事例集～障がいを持つ児童・生徒向け～』	高比良美穂	62
連載	『月刊自治研』を読む〈第三季〉●座談会のなかの八〇年代	篠田 徹	63
各県自治研活動レポート	「町民のために」自治研通して組織化に取り組む —自治労石川県本部	中川雅弥	70
連載	まちゆうき！ 土佐自治研● 水・緑・風が輝く豊かな暮らしと産業で飛躍するまち香南市	近森紳也	72
土佐自治研分科会紹介	第1分科会●自由は土佐の自治研より 第2分科会●まちの元気を語るかよ～町ん中と山ん中の活性化～	三好康夫 西尾祥之	74
	自治体の雑誌案内		69
	次号予告・編集部から		76



②『故郷喪失と再生への時間』東信堂、3200円+税 松井克浩著



①『3・11 避難者の声～当事者自身がアーカイブ～』東日本大震災避難者の会 Thanks & Dream 編集・発行

「避難者の声」

本稿の締切間際、福島原発事故で避難を余儀なくされた人、避難指示解除で帰還を選択した人の直接の声を知りたくて飯館村民の会合に参加してきた。そう思い至ったのは、他でもない『3・11 避難者の声』①を読んだから。この本は避難者自身による声を集めて編集されている。大阪に事務所があるこの避難者の会は、

福島や、福島以外から関西方面に（ほぼ自主的に）避難した人びとの「声」を集め、貴重な記録集となっている。なぜなら、自主避難者は、避難指示による（強制）避難者の苦難に加えて、世間の無理解と支援策の打ち切りに対しても闘わなければならぬからだ。

『故郷喪失と再生への時間』②は新潟大学の松井による震災直後から継続する新潟県内での聞き取り・調査をまとめ、社会学の手法によって、ほとんど前例のない広域避難の論理的整理と課題の提示を行っている。元になっているのはこの本でも当事者の「声」である。そして、当事者の感情に十分な注意を払う。

「支援の文化」

新潟県は福島県に隣接している。一時全国最大の避難者を受け入れた。最初に柏崎市（福島と原発のつながりがある）、新潟市や県内のたくさん市町村へも。今も二七五九人（一八年一月三十一日現在）が暮らす。新潟県の支援は早かつ

た。震災から一週間後には避難者支援局を設置している。福島県が仮設入居を制限し、自主避難者を区別するように要請する姿勢とは逆だった。そこには中越地震、中越沖地震を教訓に「たがいに支えあう」支援の文化が根付き、住民のエンパワーメントが効果をあげている。それでも、法律によって、子どもたちの学校の学籍は避難先に自動的に移され、避難の権利も二重の市民権の保障も実現する目処がたたない。②は山古志（二〇〇四年）を事例に復興と再生のモデルを描いている。しかし今度の広域避難災害については、「前向きなことは書けなかった」ともらす。

もうすぐ東日本大震災・大津波・原発事故は七年目を迎える。「節目って何の意味もない。だって避難者の状況は変わらないどころか、心無い政策によって私たちの心を日々不安で満たしている」①。この他にいうべき言葉が見つからない。

評者 菅原敏夫 本誌編集委員